



社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

No.5 (昭和51年)
社会福祉法人鶴風会

後援会

東京都武蔵村山市中藤3260
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13 ☎03-372-7650

後援会ニュース5号をお届けします。

今号は去る七月四日、東京小児療育病院訓練棟において開催されましたチャリティバザールとみどり愛育園へのボランティア訪問を中心に編集いたしました。

◇チャリティバザール開催◇

去る七月四日、東京小児療育病院訓練棟におきまして五十一年度

事業の一つとして「チャリティバザール」を開催いたしました。

朝日、東京、毎日各新聞紙上および後援会会員のみな様には書面をもちまして物品のご寄附をお願いいたしましたところ、多くの暖かいご援助の品をいただき、かつ評議員の先生方の奔走で企業より種々の品の御寄贈をうけました。品物は食料品、調味料、ウイスキー、石けん、陶器、衣料品、玩具、洗剤、書籍、手芸品など数千点におよび、なかには高価な日本人形や暖房器具もありました。値段は新品で六割から七割、そのほか百円、二百円コーナーも設けま

した。当日は好天にめぐまれ、九時開

場と同時に日曜日のこととご家族おそろいの方々など、会場は大変な混雑で、会場が武蔵村山市と都内の方々には遠く、是非またバザールをしてくださいという多くの

者ははじめてのバザールで不慣れもあり転手古舞いの状態で、ご来場の皆様に充分にお買い上げいただきたくどうかと反省しておりまして。今後一年回のバザールを定着させるには種々の課題がございます。

なお、適当な品がないからとか、いそがしくて荷造りが出来な

を送りする代りになどと現金をお送りくださったり、香典の一部ですとご寄付くださるなど暖かい御支援が沢山ございました。

病院の職員はもとより明治大学の福祉サークル「めばえ会」、父母の会会員、先生の御家族やその友人など多くの方が終日お手伝いくださいました事を感じたいと思います。

当日会場での売上額は百八十八万三千六百円になり、そしてバザールのための寄附金は百六十三万四九百円となりました。皆様のご支援のお蔭をもちまして、病院の病棟整備、訓練器具の購入と所期の目的を達することが出来ますことを厚く御礼申し上げます。

なお、来期のバザールの折には、再びご協力いただけますようよろしくお願ひ申し上げます。



ボランティアのみなさん、

ありがとう

読売事業団のボランティア募集は今回で十三回目。毎年、春と夏に行われ、重症心身障害児施設などへ五週間にわたってボランティアを送っています。

「みどり愛育園」にもこの夏、一グループ五名のボランティアが一週間交替で五週間(延二十五名)おとすれました。

このメンバーは、全員が十八歳から二十五、六歳の未婚女性。若



人は短大の福祉科在学中、一人は小学校の先生で、その中三名の方はこの奉仕団に加わるのは二回目とのこと。

「どんなきつかけで応募なさいましたか」
「将来、この仕事を職業にしようと思っていたので、新聞広告を見てすぐ応募しました。学校の友達にも声をかけたのですが、はじめは行くと行かないと

一人へり二人へりして、結局私一人になってしまったのは一寸残念ですけれど……」(福祉科在学中の学生)
「友達に誘われたのがきっかけでした。一週間くらいなら変った世界を見るのもいいと思ってついて来たのですが、全力投球で働いたあと、とつてもさわやかで二度目は自分の意志で参加しました。また来年も来るつもりです。」
勤務は午前八時から午後五時まで。朝のベットメイキングのあと十時からおむつ交換、昼食の介添え、部屋の掃除、十二時半から一時半まで子供達の入浴時に衣服の着脱を手伝い、お風呂がかりには水分補給のために乳酸飲料を飲ませます。ざっと、こんな日課をジーンズにエプロン掛けのかがいしいスタイルで月曜日から日曜日までくり返すのです。

期間中は病院の宿舎に泊り、食事も病院の食堂で職員と一緒にとります。勤務が終わっても病院の周囲は閑静な住宅街で、虫の音に耳をかたむけるほか、娯楽設備は全くありません。
一週間の奉仕の後——
「食事時間がずいぶんあわたたしいですね。もっとゆっくり食べさせてあげたい。出来たら、もうりません。」

い女性の夏休みといえは海へ山へとレジャー志向が強いのですが、なぜボランティアに応募したのか、八月二十三日から二十九日まで最終グループとして「みどり愛育園」を訪れた五名の方々に、そのきっかけや仕事の感想などをうかがってみました。

五人のメンバーのうち四人は学生(うち一人はミッション系、一人は短大の福祉科在学中)、一人は小学校の先生で、その中三名の方はこの奉仕団に加わるのは二回目とのこと。

「両親はもっとも子供に会いに来るべきだと思います」
これは五人のメンバー全員から出された意見でした。
「病院に入れて、やっかい払いをしたつもりの方がいるのではないのでしょうか。あれでは子供達が可愛想です」

「みどり愛育園」に入院した子供達は自発的に親がひきとらない限り、退院することはありません。
「十八歳迄」という年齢制限が撤廃されたため、事実上、永久収容となったからです。
入院↓療育↓回復↓退院というコースをたどる普通の入院児と違い、ここでは病院に入ればなしのまま、しだいに家族に忘れられてゆくというケースもすくなくありませぬ。

毎週一回の外泊日にも、入院児を連れて帰る家庭はごくわずかです。無論、これにはやむを得ない事情もあります。
子供達を電車に乗せることは不可能で病院↓自宅を往復する交通機関として自動車だけしかないこと、マイカーを運転すればともかく、タクシーを使つての往復は経済的負担がかかりすぎます。
その上、手のかかる幼児をかかえていて連れ帰っても、十分に世話することが出来ないとい訴える父母も多いのです。
しかし、この若いボランティアたちの素直な感想は、「みどり……」に吹きこんだ新鮮な一陣の風ではないでしょうか。
その素朴な言葉のひとつひとつを病院につながるすべての人々が心にとめ、考え直してみるべきでしょう。
ボランティアの方々も、この経験で得られた身障者へのあたたかい思いやりをいつまでも忘れずに、これからの生活をより充実させていきたいと思います。
ボランティアのみなさん、どうもごころうさまでした。また来年も是非、来て下さい。

ボランティアの

みな様へ

東京小児療育病院院長

藤永 数江

みな様のおかげで「みどり愛育園」の職員は夏休みをとることが出来ました。有難うございました。

この活動にはじめて参加なされた方がほとんどでしたが、なかには二度目、三度目とお馴染みのお顔もまじり、とてもなつかしい気がいたしました。みな様の一週間のボランティアワークを職員一同、心より感謝いたしております。

「ご苦勞さまでした」

さて、これからさき遠からぬ将来に結婚なさって、幸せな妻となり、母となられるお若いみな様に一言、お話をしておきたいことがあります。

それは妊娠中、胎児にとって母体の健康がどれほど大切かということですが、

みな様はこの度の経験を通し、障害を背負って生れた子供と、健康な子供との差がどれほど大きいかよくわかりになったことでしょう。障害児を一人でもすくなくするために、母体は可能な限りの

注意を払わなければなりません。

最も大切なのは、心身ともにすこやかに保つことなのです。そのためにはなごやかな人間関係、バランスのとれた栄養、適度な運動、規則正しい生活が必要なのです。

こんなことを言いますと、なにやら古めかしいと思われるかも知れませんが、実は現代女性には栄養不良、運動不足が非常に多く、これが未熟児を産む原因の一つになっていっているのです。

あまりに豊かな食物がかえって偏食をまねき、両親の過保護や苛酷な受験勉強のための運動不足、喫煙、飲酒、公害、社会環境の悪化など数えはじればきりがありません。

なかには自分独りの力では、どうにもさけられないものもありますが、ちょっと注意すれば、その悪い影響を最小限にいとめることが出来るものもあるはずですが、

尊い生命をこの世に送り出すには、それなりの自覚と責任が必要なのです。

妻になり、母になると言うその役割の重要さを、今一度よく考えてみて下さい。

責任を自覚し、心身の健康に気をつけて、可愛い健康な赤ちゃんのお母さんになって下さい。

強く明るく

東京小児療育病院
みどり愛育園父母の会

竹中広夫

わが国における福祉行政は欧米諸国に比べますと、まだ貧困の域をでませんが、十年前と比較しますと経済成長と共に福祉行政も充実の一途をたどってまいりました。その反面、人々の間から福祉の心というものが失われつつあるように思います。そういう中において、日ごろよりお寄せ頂きますみな様方の御厚情とご支援に厚く御礼申し上げます。

東京小児療育病院も十二年の歴史を歩んでまいりました。一口に十二年と申ししましてもそれは遠く長い苦難の道のりだったことでしょう。ある時は資金難に苦しみ、また、職員不足に悩みそれらをのりこえて今日あるのは各先生方ならびに職員の方達のご努力の賜と深く感謝いたしております。

さて、私には七歳の男児があり現在「みどり愛育園」に入園しております。この子が生まれた時はまさか不自由な身体にならうとは夢にも思わず、親のみが味わう感

激と喜びにひたつたものです。

なにが不幸といひましても最愛のわが子が不自由な心身の持主であるということぐらいい親にとりまして辛く悲しいことはございませぬ。かわれるものならと願う親は私ばかりではないでしょう。周囲の祝福をうけて生まれながら不幸な星を背負ってしまったわが子を哀れといとおしみ、なぜ私どもだけがと、この不幸な「生」を恨み神をのろいました。街で障害児をみかけてもお気の毒だと思ふもの何か別の世界のことと思っておりましたのに、まさか自分がその世界の真只中におかれるとは人の運命とはわからないものです。順調に成育していた子が、首のすわる時期になっても首がすわらず、不安な気持で大病院や有名病院に診察を求めても、どの病院でもなんでもないその中に首もすわってくるといわれ、安堵しているうちまもなく高熱を出し急ぎ入院して一ヶ月余。精密検査の結果脳性マヒと宣告された時は、突然奈落の底に突き落とされたように目の前が真暗になり、病室に戻りましても呆然とした私の傍には妻が幼な子を抱きしめ声もなくいつまでも泣いていました。

不幸な親がたどるように私どもも病院から病院へと渡り歩き、少しでもこの子をよく云って欲しかとあわい望みを持ちながら。しかし、絶望的な診断ばかりでした。そしてみどり愛育園に入園することが出来ました。もの云わぬ手足のきかぬわが子を見て途方にくれる毎日でしたが、病院に入り同じ障害児を持つ多くの親達とめぐり会い、また、心豊かな人々のはげましを受け、私どもの心にも少しづつ明るさがよみがえってまいりました。

こうなつた以上、運命に逆らつたところでよい事はない、運命にしたがつてその命じるままに重荷を背負い、出来る限り努力するのが私どもに与えられた使命だとさとり、強く明るく生きることが子供にも私どもにとつても最良の道であると思ひました。

東京小児療育病院、ならびにみどり愛育園は武蔵野の面影を残す緑多い村山の地にあり、常に太陽の光にかこまれております。

建物には明るく設備は整い、そこに働く職員の方々明るさに、私どもは大いに元気づけられております。十二年の歴史をふまえてより一層発展されん事を願い、私どもも協力していく心算でございます。

後援会寄付者御芳名

バザー寄付者をふくむ
アイウエオ順・敬称略
三四二名(五五〇〜五二〇)

- 赤司俊雄・浅利重子・天野まき子
青木ゆう・青木よし子・荒牧シモ
芦刈典夫・雨宮キヨイ・阿曾滋子
安藤明子・安東敬子・荒川あや
阿部賢昭・青木 瞬・赤坂 陽
阿部重正・厚味かよ子・赤池正次
青木知重・天野三男・天野多賀子
足達みき子・飯田昭子・大銅礼子
井上瑞穂・井上洋一・井上下ヨ子
井上幸子・今野信子・井上トキ
磯村 光・伊藤 礼・板倉玉子
今井 言・石川静子・稲垣正子
伊藤徳子・稲葉真理・石森ミト
伊村欣祐・井上裕子・一宮勝也
家原小文治・石川裕子・石井裕子
岩崎裕三・白井藻子・宇都宮幸枝
牛込莊一郎・梅原公江・江田フジ
海老原貞子・小川昭子・小川文子
小川再治・大嶋 功・恩田秀子
及川 貞・小山五郎・小田けい
小原正樹・岡崎君代・太田 崇
大脇照枝・小俣文栄・大槻正路
及川 忠・大熊 進・大熊はつみ
小沢沢 純・大室輝雄・大木秀子
大本太一・岡部錦子・小川寿美枝
大平イク子・加藤正三・関院純仁
加藤 太郎・川合朝子・川島文子
上高嘉納子・金滙登志子・亀谷 了
金子 忠子・柿沼英子・金子 寛
加藤啓子・梶浦敏枝・河村やえ
菊池桂助・菊岡豊三・岸 茂子
岸本茂次郎・岸 直枝・倉島操子
栗田行雄・久木留節雄・日下孝子
桑章章吾・栗林恭子・工藤訓正
- 倉富孝子・久保田トモ子・栗田菊枝
葛野シヅ・小出 誠・小山伊松
粉川佐次郎・小池広子・児玉筆子
小林義郎・小松伸弥・小池 脩
近藤澄子・小池トシ・小櫃温江
小関敏子・古賀和子・後藤千恵子
小林京子・小池 清・佐々木明子
左京 福・斉藤英子・佐藤 銅
佐藤英俊・猿橋勝子・指田 和明
佐々木庄八・三戸 緑・西條 道
桜井由美子・佐藤照子・沢田由美子
佐古崇二・佐倉 博・島津幾之進
正田二寿子・白川令子・島 積善
清水友代・白浜光子・柴田とら
下田喜久代・嶋野 栄・四金つく
白石 彰・鈴木繁雄・杉本寛子
鈴木君子・鈴木かつえ・鈴木龍太
鈴木文字・須田経宇・菅 邦夫
鈴木良子・鈴木美佐江・須賀
関川隆子・関 静・関根嘉子
側垣恵子・関部静子・高橋百合子
田鍋庸子・田中満智子・高橋和枝
立石直毅・高尾三郎・高橋里美枝
武谷ピニロピ・竹内文雄・高木輝雄
田中三重子・田中信子・高桑幹雄
高桑明子・田郷寿正・多田正子
高田恭子・高城千尋・多比良 勉
竹内敏之・竹中広夫・千木良 清
千島チエ子・津金修作・土屋久雄
塚本正子・筒井こてふ・植谷海雄
土屋満枝・出構昭子・出井 道
寺田俊郎・寺本みや・戸田芳江
豊田道子・徳重隆幸・中里 玉子
中館君枝・直井喜美子・成毛ミチ子
成毛 典子・中平 貴子・中川 礼子
中島信次・中田当里・中西登美子
新実静江・西村喜美子・西本麗子
野沢良美・野中久子・野崎成子
信岡やう子・野沢多都美・野村典恒
野津ゆきの・野原 彰・野沢典美
- 野沢和枝・林 堪子・橋本静子
秦 和子・馬場紀子・半沢紀子
林 敬・長谷山陽子・長谷川淳
原 美知・林 久子・萩谷淑子
原 信子・蓮田 清・萩原紀子
林 睦子・萩原栄子・日根野妙子
平林幸雄・平沢幸子・東出篤篤
東出祥子・久山 斌・平山ゆき
平岩扶美子・弘瀬律子・平野一郎
日上和子・藤田親代・藤藤滿洲野
藤田貞代・藤田美代・笛木トキ
深見利子・藤本貞子・藤井京子
布施京子・府川則子・古田典子
藤田トミ・船津夫佐子・福田多万里
星野和子・堀 敏子・本城ゆかり
松下芳男・松沢義人・松岡玉枝
松岡知恵子・保野昭一・町田純一
前田寿馬・牧野忠夫・松沢須磨
増田良二・宮崎明子・三浦真一
宮坂はなよ・宮本みち・宮田敬一
三浦きよ・溝口美文・宮沢 香
宮下裕江・水沼利夫・三浦洋子
三宅泰雄・箕輪とわ・村井トク
村上純一・村上リョウ・村田ユキ
村野喜代・村田憲三・村上久仁子
守矢公平・守屋孝子・百瀬貞子
森川幸江・守田文彦・森 金彌
山下文字・山口真一・山口辰雄
山口銀子・山口たづ子・柳谷紀子
山田潤史朗・山田三枝子・飯本瑛子
薬師寺成子・山口富喜・山口照子
山崎トキ子・山住美津子・山崎義郎
山本一枝・屋代英也・八代圭子
山崎倫子・山田公美・八木 薫
湯川玲子・依田幸子・米田みね
吉田 泰・吉永弘子・吉永喜美子
吉井 明・龍 紀子・若杉まり子
渡辺 明・渡辺静子・渡辺鈴子
- 森医院募金箱 三 共 共 (佛)
大日製菓(佛) 福 神 菓 局
港区民生委員 鶴風会評議員会

▼お知らせ▲

☆五十一年度十月末までの募金総額は百九十七万九千二百七十七円、御寄付いただいた方の延べ人数は三二七名になりました。

☆七月四日、東京小児療育病院訓練棟においてチャリティバザーを開催(本文参照)。当日およびその後の売上戸をふくむ総額二百八十七万六千三百五十円、他にバザーのための寄附金百六十三万四百九円になりました。

☆脳性マヒ児の早期療育の効果と病院の実態を紹介する映画「ともしびを高く」が厚生省児童福祉審議会の特選、文部省・青少年映画審議会の推選をうけました。このフィルムは団体を対象に費出しをしておりますので御希望の方は事務局までお申し出ください。貸出し料は一万円です。なおフィルムは破損のおそれがありますため郵送はできかねます。

☆十一月末映画「ともしびを高く」を宮内庁にて天皇陛下がご覧され、いたく感動のご様子に見受られ、ねぎらいのお言葉を賜りました。

☆後援会ニュースは年二回発行の予定です。紙面にみな様のご意見をとりあげてゆきたいと思っておりますので、お気づきの点、又病院見学の御希望などありましたら、後援会あてにお知らせ下さい。

〈病院扱分寄付者御芳名〉

- 飯野 武志・伊藤 英夫・笹 名
本明 寛田所勝次郎・宮川百合子 七重会・(佛)増田組・ベターホーム
上山 貞雄・重光 甫彦・小沢 実 協会・京王帝都電鉄診療所・安田
高橋三代子・鈴木 米・山弥平 火災海上保険・中野ライオンズク
片桐義子 瑞穂・大関豊子 ラブ・田沢大仁商店・のんき寿司
夏野健治・川口政吉・本関啓子 ・エルク模型西町店・東町店・東和
海老原・渡辺 美久・山口 防災工業・明大しいの実会・「青
帰山悦郎・河路明夫・佐古正枝 年の船」団員一同・東大和高校生
佐倉 博・上田 葉・三浦 寿男 徒会